

令和7年度 福井県立高志高等学校スクールプラン

本校の校訓

克己 創造 敬愛

本校の最上位目標 = 育てたい人

夢・希望の実現のために、自ら考え、自ら目標を設定し、自ら学び、果敢にチャレンジすることのできる人

最上位目標を達成するための重点目標・具体的取組・目標

領域	学びを支援する	行動面の成長を支援する	進路実現を支援する	情操面の成長を支援する	環境面を支援する
重点目標	自ら目標を設定し、自ら学ぶ生徒を育てる ○「探究的な学び」と「創造的な思考」の視点から授業改善を行う。 ○探究創造科としての教育プログラム開発をすすめる。	自ら考え、責任を持って行動する生徒を育てる ○ホームルーム活動、学校行事等を通して、生徒の主体的な「学校づくり」の機会を提供する。 ○主権者としての自覚を持ち、他者と協働してより良い「社会づくり」に貢献しようとする意識を高める。	夢や希望の実現に向けて努力する生徒を育てる ○興味や関心の掘り下げに資する体験的活動を充実させる。 ○一人ひとりに応じたきめ細かい進路支援を推進する。	互いに肯定しあい、遅く生きる生徒を育てる ○様々な考え方に触れ、豊かな情操を育むために、読書活動を充実させる。 ○様々な人々との交流を促進することで、多様性への理解と自己の成長を促す。	生徒が安心・安全に過ごせる環境を提供する ○生徒・保護者を支援する教育相談体制を充実させる。 ○学習環境の整備と美化・衛生活動を推進する。 ○家庭・地域・関係機関等と連携し、生徒が安心・安全に活動できる拠点としての環境整備をする。
	具体的取組と目標 生徒自らが問いや課題を設定しながら学びを進める過程を通し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 （目標） 「教科（KoAを含む）の学習において、自ら見つけた課題を解決するための学習ができていく」という生徒の割合 80%以上 探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む。 （目標） 「探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組んでいる」という教員の割合 80%以上 SSH・SGHネットワークの取組（課題研究・各種研修・講演会・コンテスト等参加等を含む）により、生徒の探究力や課題解決能力を高める。 （目標） 「SSH・SGHネットワークの取組（課題研究・各種研修・講演会・コンテスト等参加等）により、探究力や課題解決能力が高まった」という生徒の割合 80%以上	ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動等において、生徒が主体的に活動できる場を提供する。 （目標） 「ホームルーム活動・学校祭・生徒会活動・部活動等に主体的に取り組むことができた」という生徒の割合 80%以上 18歳成人を見据え、大人としての自覚と責任を持った行動を促すとともに、他者への配慮や協調性を持った人材を育成する。 （目標） 「学校生活全般において、思いやりや助け合いの心を持ち取り組むことができた」という生徒の割合 90%以上 心身の健康に配慮できる生徒を育てる。 （目標） 「心や体の健康を考えた生活を送れるように努めている」という生徒の割合 90%以上	探究学習（課題研究、各種研修、コンテスト等への参加を含む）や、各大学が高校生向けに実施する事業（オープンキャンパス、高校生向け公開授業等）へ積極的に参加できる生徒を育てる。これにより、自身が高い興味・関心を持って積極的に学び続けることのできる分野への進路実現を果たすことのできる生徒を育てる。 （目標） 「進路目標を持ち、その実現に向けて努力している」という生徒の割合 80%以上 生徒自身が志望する進路を実現するために必要な高い学力を身につける支援（授業改善、模擬試験、長期休暇中の課外授業、大学別特別講座等）を行う。 （目標） 「国公立大学合格者数」 160名以上 「難関10大学および医学部医学科合格者数」 45名以上 「難関私立大学合格者数」 150名以上	朝読書週間、図書館講座、ビブリオバトル等の行事や掲示物、広報活動を通して読書意欲を喚起し、図書館利用および読書量の増加を図る。 （目標） 「年間貸出総数」 3500冊以上 校内外の様々な人々と交流する機会を設け、多角的な視点を持ち、自己の成長につなげることができるよう支援する。 （目標） 「校内外の様々な人々との交流を通して、多角的な視点を獲得し、自己の成長につなげることができた」という生徒の割合 80%以上	相談環境を充実し、カウンセリング等いつでも受けることができるようにする。 （目標） 「悩みごとなどを相談できる環境がある」という生徒の割合 90%以上 清掃活動等を通して、校内美化のために自ら考え主体的に行動できるようにする。 （目標） 「校内の環境美化に意欲的に取り組んでいる」という生徒の割合 90%以上 防火防災を意識し、安心・安全に生活できる環境を整える。 （目標） 「避難訓練等を通して自分の身を守ることへの意識が高まった」という生徒の割合 90%以上

教員の業務効率向上に資する取組

教員の「働き方」改革	教員の「働きがい」向上
「学校以外が担うべき業務」「必ずしも教師が担う必要のない業務」を可能な限り手放し、学校の業務改善を断行する。 これまで「学校の常識」や「慣行」として行われていたことの意義を問い直し、見直しをすすめる。	「定時退庁日」「早出・遅出勤務」の継続や「学校閉庁日」の増加等により、教員が心身の健康を維持できる環境を整える。 教員間の研修の時間を創設し、教員が意欲とやりがいを持って業務に従事できるようにする。

重点目標の実現に向けて、全ての教育活動で共通して取り組む事柄

生徒同士の交流・共創・切磋琢磨	主体性を育成する発問の工夫	学習評価の充実と授業改善の推進	心理的安全性の確保	教育DXの推進	外部との連携の充実
全学年において、内進生と高入生の混合クラスを編成し、交流を促す。 学校行事や部活動等において、異学年の生徒が協働する機会をつくる。 平日の昼休みや放課後、週休日等を活用し、中高生が合同で参加できるイベントやセミナー等を実施する。	種類の異なる発問（※）を、場面・状況等に応じて使い分ける。 ＜事実発問＞ 記憶、理解 ＜評価発問＞ 応用、分析、評価 ＜創造発問＞ 創造、イノベーションプラン 物事を自分事として捉えるよう促し、目的を持って課題解決にあたらうとする働きかけを行う。	生徒自らが学習に対する見通しを持ち、自らの学びを振り返りながら自己調整し、主体的な学習者となるよう促す。 教員が「指導と評価の一体化」を図りながら、不断の授業改善に取り組む。	生徒の判断・選択を尊重しながら支援する。 「どうしたい？」「どうしたらいい？」「どうしてほしい？」の問いかけ 生徒の思いや考えを肯定し、自己受容・自己肯定につなげる。 共感力、想像力、人間関係調整力等の成長に資する働きかけを行う。	「一人一台端末」等を活用し、生徒が自らの意見や考え等を他者と共有することで思考・議論を深化する。 オンラインを通じて、生徒が校内外の様々な人々と交流する。 登校できない生徒等に対する遠隔授業・オンライン配信を行う。	大学・企業等との連携を更に進め、生徒に多様な学びの場を提供する。 同窓会による「若葉応援プロジェクト」や各種コンテスト等への積極的な参加を勧める。 卒業生やインターン学生等との交流の機会を設ける。